THE JAPANESE SOCIETY FOR QUALITY CONTROL
2011.12／DECEMBER
No.313
JSQCニューズ

発行 社団法人 日本品質管理学会
東京都杉並区高円寺南1- 2-1　㈶日本科学技術連盟東高円寺ビル内
電話.03（5378）1506　FAX.03（5378）1507
ホームページ:www.jsqc.org/

CONTENTS

1 -トピックス　中部支部の活動紹介
2 -私の提言　産官学が連携する人材育成のためのPDCAサイクル
2 -ルポルタージュ　第19回ヤング・サマー・セミナー
3 -豊田幹司郎氏受章／第41年度事業計画／8月の入会者紹介
4 -行事案内／10th ANQ Congress 2012 Hong Kong／新規研究会募集／事務局からのお知らせ

中部支部の活動紹介

中部支部長　山内　康仁

昨今起きている企業の品質問題を振り返ると、幅広い分野で‘品質問題’や‘安全・安心を脅かす問題’など、日本の「Qの確保」の基盤が揺ぎつつあるのではないか。

「Qの確保」のためには、ものづくりの現場で、今、何が起こっているのか、現地・現物で確認し、ものづくり現場で役に立つ活動を、産と学で実行ある形で展開することが重要と考える。

このため、中部支部では、2007年度より「実践的Qの確保」をスローガンに掲げて、支部活動を展開している。

この活動の基盤は研究会活動にある。ものづくり現場で役に立つ「仕掛け」や「仕組み」を‘産’と‘学’で研究するためである。

■中部支部の研究会活動と研究発表会

現場に起きている問題提起から、産と学で解決策を、それぞれの研究会で議論し、その成果を研究発表している。

① 産学連携現地現物研究会
◇開発・設計の分野を主体に、企業と大学の先生が一体となり、‘品質確保の新しい手法’や‘活用できる方法論’の確立を研究。
②東海地区若手研究会
③北陸地区若手研究会
◇東海と北陸、それぞれの企業人と大学研究者が共同で現場の課題を研究し、解決策を追及している。
④中部医療の質管理研究会
◇病院現場の問題を研究し、シンポジウムで研究発表をするとともに、講演などを併催している。

これらの研究会では、下部に部会を設けて活動している研究会もあるが、いずれも１回／２～３ヵ月の頻度で研究会を開催している。

これらの成果については、毎年3、8月の北陸地区研究発表会と8月の中部支部研究発表会などで、学会員以外にも参加を呼びかけ、発表している。

また名古屋工業大学、金沢工業大学では、産学連携製造中核人材育成として、企業のシニア人材活用、ものづくり職場での実践などを取り入れた教育プログラムを用い、社会人と学生が一緒になった実践的工学教育も盛んである。

■シンポジウムの開催

近年のシンポジウムでは、「実践的Qの確保」に繋がるパネル討論を企画してきた。具体的には、‘未然防止の実践活動’‘品質工学との融合’‘源流からの未然防止’など毎年テーマを選んで展開している。

昨今の中部地区の企業環境は、中々閉塞感から抜け出すことができない状況が続いている。支部では、このような環境を踏まえ、より魅力ある活動を展開することが、正会員や賛助会員の増加にも繋がり、学会がより活発化すると考える。このため、昨年より支部テーマを『新たな時代を見据えた、新たな成長力の確保』と置き、学会員以外にも魅力あるテーマを選び、講演会やシンポジウムの開催を通じ、会員以外の人にも学会の魅力を伝えている。

■講演会の開催

毎年１回、支部の方針に沿ったテーマで展開している。昨年から、昨今の企業環境を捉えて、‘企業の持続的成長に向けた品質経営’に関するテーマで講演を企画している。

■事業所見学会の開催

毎年２～３回、アンケートの見学希望会社を主体に、中部地区の特色ある活動を展開している企業を選び、開催している。

■幹事研修会の開催

これらの活動を展開するため、中部支部では、毎年、22名の幹事を産・学から選出し、幹事会を毎月開催し、行事や研究会の企画・展開を図っている。また幹事のレベルアップのために、２回／年、幹事研修会を実施している。

以上が、中部支部の活動概要であるが、今後とも、産と学の連携により、現場で抱えている問題を掘り起こし、‘SQCの活用’や‘仕組み・仕掛け’の議論を深め、具体的な解決策を発信すると共に、中部支部が品質管理を通じ、社会に貢献できればと考える。

●私の提言●

産官学が連携する人材育成のためのPDCAサイクル

東洋大学経済学部　**渡辺　美智子**



1990年代後半からISIなどの国際会議で、専門の研究セッションに比べて教育セッションの盛り上がり方が尋常ではないことに驚かされた。ドイツを例に挙げると、『教育で社会・産業界の構造改革を起こす』という大きなフレーズで、New Media in Educationプロジェクトが政府の大規模予算で進められ、インターネット上にショッピングモールならぬエデュケーションモールを各専門学協会が構築するという。対象は、児童・生徒から大学生・教師・職業人そして社会人とレベルに応じた系統的な各分野の教育教材を開発し無料で公開することで、国民の自ら学ぶ環境を支援するというものである。統計教育はとくに支援が大きく、ドイツ統計学会は拠点11大学の協働で、マルチメディアを活用したNew Statisticsプロジェクトを億の予算で進め、その成果を会長が報告していた。

ドイツに限らず、来るべき21世紀に向かって世界の多くの国がイノベーションによる経済成長を目指し、そのための長期的視野に立った産官学連携の人材育成のスキームを90年代から構築し実践している。具体的には、「集団での学び」・「課題発見と問題解決」・「イノベーション」の力を国民にコンピテンシー（行動特性）として身に付けるため、学校教育の早期よりの教育改革とその質保証を産官学が連携して回すPDCAサイクルである。

先ず産業界を代表する各企業は10年後20年後を見据えた21世紀型のワークスキルを明示しそれを教育界に伝え、国はそれぞれの専門の学協会と連携し21世紀型人材育成の目標に照らし、各分野・教科の教育のガイドラインを作成し教育界を指導する、教育界はガイドラインに従って教育サービスを実践する、ただし、教師はそのための研修機会や教材・授業案を容易に入手する権利があり、ガイドラインを作成した国や学協会は教員の研修の機会や教材・授業案を提供する社会的責任があると、既に92年の米国政府レポートに明記されている。

とくに、教育効果のアセスメントを重視し、国や学協会・産業界によるガイドラインに沿った質の高い全国レベルの統一試験（検定）の必要性が説かれている。

品質管理検定は産学との連携で職業人の学びを支えているが、コンピテンシーは一朝一夕では身に付かない。初等中等教育での品質管理的思考の育成が求められている。

第19回 YSS ルポ

日本武道館研修センター

去る9月3・4日に、第19回ヤング・サマー・セミナー（YSS）が開催された。今年は㈶日本武道館の研修施設である日本武道館研修センターを利用した。参加資格は35歳以下の正会員・準会員であり、今年は企業から4名、大学教員2名、学生29名の計35名が参加し、講演と研究発表・討論が行われた。

初日は、今回のテーマである「ヒューマンエラー・失敗学」に関して、まず、全日本空輸㈱の江島聖志氏に「ANA整備部門におけるヒューマンファクターズへの取り組み」という題目で、航空界におけるヒューマンエラーの分析と再発防止活動についてご講演いただいた。次に、信託銀行関連会社常務取締役の宮崎敬氏に「失敗学を起点とした事務ミス防止の考え方」という題目で、事務におけるヒューマンエラーでの失敗学の考え方と活用法について、そして、電気通信大学大学院情報システム学研究科の田中健次先生には「回避すべきヒューマンエラーと歓迎すべきヒューマンエラー」という題目で、エラーによるトラブルを回避する方針についてご講演いただいた。

夕食と懇親会では、参加者同士の親睦を深めるとともに、研究内容に関する情報交換が積極的に行われた。

翌日は、電気通信大学の伊地知蘭美さんが「医療事故防止のためのダブルチェック」、東京都市大学の中村康人さんが「商品特性と消費者意識を考慮した口コミモデルの構築」、早稲田大学の久米将太さんが「MTシステムを用いた財務諸表分析～粉飾決算判別への適用～」という題目でそれぞれ発表を行った。最後に田辺三菱製薬㈱の隈雄亮さんが「医薬品開発における品質マネジメントアプローチ」というテーマで、医薬品開発における品質管理について発表した。

YSSは、会員同士の親睦を深めるとともに、自己研鑽の場にもなっている。こうした機会を与えてくださった学会の皆様に感謝するとともに、正会員・準会員を問わず今後も多くの若手の参加を期待したい。

藤原　京（早稲田大学）

豊田幹司郎氏が旭日重光章を受章

本学会正会員でアイシン精機㈱取締役会長 豊田幹司郎氏が、平成23年度秋の叙勲で、標記の勲章を受章されました。

豊田氏は同社の経営理念である「品質至上」に固い信念と強い拘りを持ち、部品メーカーとしては比類なきテストコースを北海道に建設する等、信頼性評価の強化による品質の確保に多大な精力を注ぎ、常にお客様を意識した経営姿勢により、同社が今日まで発展する礎を築きました。

また、㈳日本自動車部品工業会や愛知県公安委員会など諸団体の役員としても業界および地域の発展に貢献されています。受章おめでとうございました。

㈳日本品質管理学会 第41年度事業計画

行事／月		H23 10月	11月	12月	H24 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
年次大会・通常総会		第41回 28-29日(土) 名工大												第42回 27-28日(土)
研究発表会	本部								第98回 26日(土)- 27日(日)					
	中部											第99回		
	関西												第100回	
講演会								第112回 (本部)		第113回 (中部)	第114回 (関西)			
ヤングサマーセミナー												第20回		
シンポジウム			第137回 12日(土) (本部)			第138回 (本部)					第139回 (中部)	第140回 (関西)		
事業所見学会	本部						第357回			第359回				
	中部							第356回				第360回		
	関西								第358回			第361回		
クオリティトーク				第77回 20日(月)		第78回		第79回		第80回		第81回		
その他の行事		第27回 FMESシンポジウム		第2回科学技術教育フォーラム 27日(火)							10th ANQ 香港 7/31-8/3			
会合／月		H23 10月	11月	12月	H24 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
理事会		391回 20日(木)		392回 19日(月)	393回 31日(火)		394回 22日(木)		395回		396回		397回	398回
庶務・会員サービス・規定・会計・広報合同委員会		17日(月)		12日(月)	24日(火)		15日(木)							
論文誌編集委員会		4日(火)	11日(金)	7日(水)	17日(火)	6日(月)	6日(火)	6日(金)	8日(火)	12日(火)	20日(金)	ー	5日(水)	5日(金)
学会誌編集委員会		5日(水)	29日(火)		16日(月)									
事業委員会		14日(金)	ー	13日(火)	13日(金)									

※論文投稿は委員会の開催10日前までにお願いいたします。直前の投稿では審査開始が遅れることがあります。

2011年8月の入会者紹介

2011年8月22日の資格審査において、下記の通り正会員19名、準会員15名、賛助会員1社の入会が承認されました。

（正会員19名）○新井田　有慶（新井田技術士事務所）○瀧田　純也（宇宙航空研究開発機構）○原野　克宏（住友化学）○鳥居　勝彦（アスモ）○武井　雅（日本リサーチセンター）○武田　元（ラサ工業）○杉原　健治（パナソニック）○廣本　恭之（UMG ABS）○大西　道隆（大阪ガス）○近藤　拓（アイシン・エィ・ダブリュ）○小原　輝英（NEC）○橋本　誠（キヤノン電子）○岸　健二・金津　成登（アイシン精機）○立石　郁（BSIグループジャパン）○宇梶　健一（関東情報サービス）○布施　昇一（大風印刷）○金澤　健一（ニコン）○太田　勝之（シマノ）

（準会員15名）○伊藤　慶介（名古屋工業大学）○稲吉　礼子（日本大学）○河合　雅文・岡田　朗・遠藤　剛・土田　暁人・久米　将太（早稲田大学）○松田　和也（青山学院大学）○赤井　修也・加藤　弘靖（神戸大学）○井上　彰・川島　直樹・大森　康右・伊平　侑生・岩崎　快（東京都市大学）

（賛助会員1社1口）

○内閣府大臣官房統計委員会担当室

正 会 員：2460名

準 会 員：108名

賛助会員：154社185口

公共会員：23口

10th ANQ Congress 2012 Hong Kong
"Striving for Excellence trough Product and Service Quality"

2012年7月31日㈫～8月3日㈮に香港にて、第10回ANQ Congressが開催されます。（http://www.anq2012.org/）

JSQCからの発表希望者はJSQCを通じて発表申込み、アブストラクト等を提出していただきます。

アブストラクト：A4・2ページ、英語及び日本語
発表申込み締切：2012年2月15日　JSQC宛 office@jsqc.org

詳細につきましては、JSQCホームページをご覧ください。

新規研究会を受け付けます

研究開発委員会では、本年度に設置する新規公募研究会の申請を受け付けます。奮って申請してください。特に、若手会員を主査とする研究会を歓迎いたします。

研究期間：2012年４月～2013年３月（１年間）

申請方法：「新規研究会設置申請書」（様式204-1）をホームページよりダウンロードし、ご記入の上、郵送で本部事務局宛にお送りください。
http://www.jsqc.org/ja/oshirase/kenkyuukai_shinki.html

申込締切：2012年２月17日㈮必着

研究会の申請と運営：
○研究会の申請にあたり、申請者は共同研究者（学界・産業界）を５～10人位事前に働きかけて集め、申請書に記入する。理事会承認後JSQCニューズでメンバーを公募する。
○研究目的と年間の研究活動計画を作成する。
○１研究会のメンバーは20人までとする。
○会場は原則として日本科学技術連盟東高円寺ビル会議室を利用する。
○時間は18時～20時とし、食事を支給する。ただし、会場の都合がつけば午後でも可とする。
○研究会運営費は一人１回当たり1,150円（内訳：通信費・資料代・食事代）。ただし、年間開催数は11回を限度とする。

行 事 案 内

●第77回クオリティトーク（本部）
テーマ：サービス品質の構造を探る
～プロ野球の事例から学ぶ～
ゲスト：鈴木秀男氏（慶應義塾大学）
日　時：2011年12月20日㈫18:00～20:30
会　場：日本科学技術連盟
東高円寺ビル5階研修室
定　員：30名
参加費：会員3,000円　非会員4,000円
準会員・一般学生2,000円
（含軽食・当日払い）
詳　細：ホームページをご覧ください。
申込方法：本部事務局宛E-mailまたはFAXにてお申し込みください。

●第98回研究発表会（本部）発表募集
日　時：2012年5月26日㈯27日㈰
会　場：日本科学技術連盟
東高円寺ビル
⑴申込期限
発表申込締切：3月19日㈪
予稿原稿締切：4月20日㈮必着
参加申込締切：5月16日㈬
⑵研究発表・事例発表の申込方法
同封の発表申込要領をご覧ください。
⑶参加申込
３月送付の参加申込書にご記入の上、本部事務局までお申し込みください。

行 事 申 込 先
JSQCホームページ：www.jsqc.org/
本部：E-mail：apply@jsqc.org

事務局からのお知らせ

第41年度研究助成募集要項

1. 趣　　旨
21世紀を担う若手研究者や海外からの留学生に対し、その研究活動をサポートすることを目的とします。個人の研究への助成はもちろん、同じようなテーマを抱えた少数の若手研究者の研究集会への助成、海外の若手研究者の招聘への助成なども含みます。

2. 助成金額：１件5万円　4件以内

3. 期　　間：１年間（第41年度：平成23年10月から平成24年9月）

4. 募集の対象
選考時に申請者が㈳日本品質管理学会の正会員もしくは準会員であり、次のいずれかの条件を満たす者とします。なお、本研究助成を過去２回採択されたことがある場合は対象から除外します。また、⑵の条件を満たす者については選考時に考慮をいたします。
⑴申請時に35歳以下であり、大学、研究所、研究機関、教育機関等において研究活動に従事する者。
⑵申請時に日本の大学院に在籍する外国籍の留学生（年齢制約はありません）。
⑶申請時に35歳以下であり、海外の大学、研究所、研究機関、教育機関等において品質管理についての研究活動に従事する者で㈳日本品質管理学会の主催する諸行事、または品質管理に関連する研究集会に参加しようとする者。ただし、申請は招聘者が行うこととします。

5. 助成対象
品質管理に関連した研究を対象とします。

6. その他の申請条件
⑴報告書は所定の様式で提出してください。
⑵研究成果を当学会誌へ投稿、あるいは研究発表会などで発表することを奨励します。
⑶学生が申請をする場合、申請時に指導教官・指導教員の所見を必要とします。

7. 申請の方法
所定の「㈳日本品質管理学会 研究助成交付申請書」を用いてください。申請書の様式は学会ホームページ（トップページ→お知らせ→理事会からのお知らせ）を参照し、メールに申請書を添付してください。

8. 募集期間：平成23年12月～平成24年３月末日

9. 選考方法
㈳日本品質管理学会研究助成委員会が審査選考を行います。

10. 決定通知
平成24年4月末に採択者宛に通知します。

11. 申請書提出先
㈳日本品質管理学会 本部事務局
〒166-0003 東京都杉並区高円寺南１－２－１
TEL　03-5378-1506　FAX　03-5378-1507
E-mail：office@jsqc.org